

知事記者会見の概要

日 時：令和7年4月1日(火) 11:30～11:55

場 所：502会議室

出席記者：9名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和7年度当初にあたって

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：河北・共同・TUY >

☆発表事項

知事

皆さん、おはようございます。

大雪のシーズンが終わり、といっても今日はちょっと雪が降っているので、いろいろな作物のこと、花のことなどが心配なところでもあります。寒暖を繰り返しながらも、ふきのとうや福寿草、ヒヤシンスなどが花開いて、ようやく春の訪れを感じられる季節となりました。

本日から、いよいよ令和7年度がスタートいたします。

さて、本県の人口は、直近で自然減8割、社会減2割の割合で減少が加速しており、今年中に100万人を割ることが見込まれております。

調べてみましたら、大正14年に100万人を超え、昭和25年にピークの135万7千人超となり、以来、少しずつ減少してきているということが分かりました。つまり、大正14年以前は人口が100万人以下であったということでもあります。大正14年以降、100年ほどは人口100万人以上が続いていたということでもあります。人口が100万人を割るということは、現代を生きる私たちにとって、大変ショッキングに感じられますが、歴史的に考えれば一つの通過点とも言えることでもありまして、危機感を持ちながらも決してマイナス思考に陥らないということが大切だと考えます。

もちろん、人口は全ての尺度となり得るものであり、県の活力の源であるとも言えます。それゆえに、先般策定した「第4次山形県総合発展計画」の「後期実施計画」におきましても、人口減少対策を最重要課題と位置付け、減少のスピードの緩和に取り組む「抑制策」と、減少が進む中であっても生活の質と地域活力の維持向上を図る「対応策」の両面から取り組むこととしております。

大事なことは、こうした状況にあるからこそ、決して後ろ向きにならず、きちんと前を向いて、本県の強みを最大限に活かすとともに、新しい強みを作っていくことが大切であり、その気概が求められていると思います。

また、災害の頻発化・激甚化や長引く物価高騰などを踏まえ、県民の皆さんの安全・安心の確保に向けた取組みを、なお一層強化するとともに、社会経済情勢の変化をチャンスと捉え、デジタルの活用による生産性向上や利便性向上、GX、いわゆるグリーン・トランスフォーメーションの推進、そして観光交流などで国内外の活力を取り込むことや、外国人材の活用など、時代の変化に柔軟に対応し、新たな取組みにも積極的にチャレンジしていくことが重要であります。

こうした、未来につながる持続可能な県づくりに当たりましては、「令和7年度県政運営の基本的考え方」でお示ししたとおり、一つには中長期を見据えた「人口減少対策の強化」、二つには時代の変化を推進力とした「産業の稼ぐ力の向上」、そして三つ目、様々なリスクへの対応強化による「安全・安心の確保」、これら三つを施策展開の主な方向性とし、これ

までの取組みを着実かつ継続的に推進するとともに、直面する新たな課題にも積極果敢にチャレンジしていきたいと考えております。

そもそも県政は、「県民の幸せ」と「県政の発展」を目指してなされるべきものであり、このことは人口の増減にかかわらず不変であります。むしろ人口減少の時代だからこそ、なお一層、県民の皆さんのウェルビーイングを実現し、県民の皆さんが前を向いて未来に明るい展望を抱くことができる山形県を県民の皆さんとともに創っていくことが肝要であると思っております。

こうした考えのもと、今年度、みらい企画創造部に「いきいき山形未来企画室」を新設し、「いきいき山形未来企画監（兼）次長」を配置いたしました。

また、米沢トンネル（仮称）の整備や米坂線の復旧、山形・庄内空港のさらなる利用拡大など、本県交通網の機能強化に向けた重要施策を強力に前に進めるため、「交通機能強化・DX推進監（兼）次長」を配置いたしました。

さらに、頻発化・激甚化する災害等の教訓・課題などを踏まえ、地域防災力のさらなる充実・強化を図るため、防災危機管理課に「防災学習・防災DX推進室」を新設いたしました。

こうした新しい体制のもと、「県民の幸せ」と「県政の発展」を目指し、全力で取り組んでまいります。

ここで、今年度の、本県における大きな動きやトピックに触れたいと思います。

今年度は、本県でさくらんぼや西洋なしなどの栽培が始まってから 150 年の節目を迎えます。先人たちが一途に果実（補足：やまがたフルーツ 150 周年事業のキャッチフレーズが「いちずに、かじつ。」）に取り組み、挑戦を続けてきてくださったからこそ、現在の「さくらんぼ県やまがた」があります。さくらんぼをはじめとする本県の果樹産業にとって記念すべき年でありますので、県全体で「やまがたフルーツ 150 周年」を盛り上げ、県産フルーツの魅力発信や果樹産地の活性化、さらには、関係人口や交流人口の拡大につながるよう、部局横断で積極的に取り組んでまいります。

また、東北公益文科大学につきましては、昨年 8 月に県と庄内 2 市 3 町、学校法人東北公益文科大学との間で公立化および機能強化に向けた基本合意がなされました。社会や地域を取り巻く環境が変化する中、より魅力的で特色ある大学として、地域に必要とされる人材を育成し、輩出するため、関係市町や大学等と連携し、来年、令和 8 年 4 月の公立化を目指して、しっかりと準備を進めてまいります。

そして、人口減少による国内・県内の観光需要の縮小が見込まれる中、旺盛なインバウンド需要を本県に広く取り込み、交流人口を拡大し、地域経済活性化につなげていくことが重要であります。昨年 9 月に本県全域が高付加価値旅行者への誘客を目的とした観光庁のモデル観光地に選定されたことも大きな追い風になると思っております。また、インバウンドだけでなく、アウトバウンドもあわせた双方向の交流が持続的な発展には欠かせませ

るので、イン・アウト両方の視点を持って観光施策に力を入れて取り組んでまいります。

さらに、西村山地域における医療提供体制につきましては、県立河北病院と寒河江市立病院の統合再編に向けて検討を重ね、昨年度、基本構想を策定いたしました。今年度は建設予定地や新病院の機能などを定める基本計画の検討に取り組み、令和13年度の開院を目指し、引き続き準備を進めてまいります。

ここまで今年度の大きなトピックについてお話をしてきました。

最後に、防災力の強化・向上について申し上げます。

昨年7月の豪雨災害は、本県における自然災害としては過去最大の被害となりました。県としましては、被災市町村をはじめ、政府や関係機関と連携し、迅速な災害対応や応急復旧に取り組んでまいりました。現在も被災者の生活再建、道路、河川、農地等の本格的な復旧・復興に力を注いでいるところであります。

今般の豪雨災害や能登半島地震では、関係者間の情報共有や広域的な応援体制の構築、避難所の快適な生活環境の確保など、災害対応における様々な課題が浮き彫りとなりました。

人口減少が進む中で激甚化・頻発化する自然災害に対応していくためには、これまで以上に政府や自治体、関係機関等とのさらなる連携強化が必要となります。県民の皆さんが安心して生活できるよう、より一層力を入れて防災対策に取り組み、災害に強い県づくりを進めてまいります。

結びになりますが、令和7年度も「県民のための県政」、「県民のための県庁」であることを深く心に刻み、県民の皆さんが、ここ山形県に暮らしてよかったと、幸せを感じていただける山形県づくりに全力でまい進してまいります。今年度もよろしく願いいたします。

☆フリー質問

記者

共同通信の中村です。

先ほど職員への訓示でもお話がありましたが、マイナス思考に陥らないとか新しい強みを作っていく、その気概が求められているといったような、人口減を前にしてこういうふうにしたいという知事の思いがあるのかなと思ったのですけれども、そういう前向き思考で行きたいという訓示に込めた知事の思いを少し詳しく教えていただければなと思います。

知事

そうですね、やはり人口が100万人以上というのはここ100年ほど続いていたということがありましたので、それが当たり前というようなことだったのが100年ぶりに100万人を割るということでありまして、現代を生きている私たちにとっては初めての経験だと思われ、

大きな転換点と言いますか、やはりショッキングなことであるというふうに思います。

ここで気持ちが沈んでしまっは良くないと私は思うんですね。やっぱりがっかりしない、落胆しないで、じゃあどうやってこれからそれを補っていけるのか。自然減が最近8割ということを申し上げました。構造的なものがありますので、まだしばらくは続くのかなというふうに思っておりますので、1年1年落胆せずにですね、この状況が少しは続くんだけれども、その後も見据えてしっかりと山形県づくり、県民の皆さんのウェルビーイングを大切にしながら、皆さんが幸せに暮らしていける県づくりということについてですね、しっかりと前向きに事業を進めていくことが大事だということを職員の皆さんと共有したいと思ひまして、朝から様々な場面で申し上げているところです。

県民の皆さんもですね、本当にいろいろな、様々な課題が山積している中ではあるんですけども、やはりここで心の持ちようというのは非常に大きなものだと思いますので、この素晴らしい山形県の美しい自然であるとか、おいしい食であるとか、また誇らしい物づくりの技術があると、また歴史、伝統、素晴らしいものがたくさんありますので、そういったもの、強みをですね、しっかりと発信をしたり、また新しい強みもさらに作っていくというような気概を持って県政にまい進していきたいと思っております。

記者

先ほどもちょっと新しい強みというお話がありましたが、具体的にどういうところがあるのでしょうか。観光とかいうお話も少しあったかと思ひますけれども。

知事

そうですね、観光、やはり人口減少を補うというような視点で、県内の市場がいろいろ縮小していくということがやはり私は心配でありますので、輸出でありましたり、それから観光・交流を拡大するというようなことでありましたり、また、経済をなるべく縮小させたくないというようなことでは、人手不足、これは大変大きな課題でありますので、外国人材の活用といったこともしっかりと前に進めながら、山形県の活力をですね、維持、できれば向上していけるようにしたいというふうに思っています。

新しい強みというものはですね、そういう中でやはり、相互作用、相乗効果みたいにして県民と外国人との間のいろいろなやりとりの中であったり、また、観光の中でどういう強みを作っていくかということであったり、いろいろなことが考えられると思ひますけれども、やはり、県民の皆さん一人ひとりが、前向きに新しいことに挑戦をし続けるということがまた活路を開いていくことにつながっていくと思ひますので、皆さんも一緒になってですね、そういった県作りを一緒になって作っていききたいというふうに思っているところです。

記者

読売新聞の須永と申します。お願いします。

昨年7月の豪雨災害について言及ありましたけれども、復旧工事が本格化しているなんていう話も出てきていますけれども、知事の復旧・復興への思い、どのように取り組んでいくかということ、あらためてお聞かせください。

知事

はい、分かりました。

昨年の7月25日、26日の大雨による災害、これは本当に過去最大の被害額となりました。本当に被災者の皆さんも大変な思いをしておられます。未だに自宅に戻れない方々もいらっしゃると思います。やはり、一日も早く、生活再建ができるように、また事業再建ができるように、県としても市町村また政府など、関係機関と一緒にですね、着実にそして一日も早く、復旧・復興、実現達成できるようにしていきたいという思いであります。

冬もようやく、今日はちょっと寒いのですけれども、ただ、ようやく春になってですね、自然もまた花開いて、また実りの時を迎えるという、そういう季節でありますので、希望を持って皆さんと一緒に、復旧・復興をがんばりたいなというふうに思っております。

記者

朝日新聞の斎藤と申します。福島県の郡山市から来ました。よろしくお願いします。

知事、今年度は山形フルーツの栽培が始まってから150年の記念すべき年ということでご紹介いただきました。知事としてはこの1年をですね、どんなふうに盛り上げて、どんな年にしていきたいかというお考えがおありか。それと、来たばかりで勉強不足なのですが、何かキックオフイベントなど、具体的にどんなイベントが準備されているか、もしお話できるところがありましたら教えてください。

知事

はい、分かりました。

明治8年に本県でさくらんぼや西洋梨などが栽培されてから、150年ということであります。一口に言いますけれども、本当に何代にも渡ってですね、先人の方々が「いちずに、かじつ」、これ、キャッチフレーズなんですけれども、そういうふうに取り組んでくださったからこそ、現在の「さくらんぼ県山形」があると思っています。やっぱり山形って言うとさくらんぼなんですね。どこへ行っても、全国これだけは本当に「山形はさくらんぼですね」と、「さくらんぼと言えば山形ですね」というふうに言われるんですね。これは大きな強みだと思っています。さくらんぼだけでなく、スイカとかですね、ブドウ、梨、桃、メロン、柿、りんご。本当にたくさんのフルーツを栽培する果樹王国になってき

たというふうに思っています。

このことはやはり、山形県の強みの一つだと思っていますので、このフルーツやまがた150周年ということを契機にですね、やはり、山形県のフルーツの魅力を全国に、国内外に発信をして、そして、県産のフルーツを皆さんから楽しんでいただいたり、それを目当てに観光で来ていただいたりというようなことを、やはり取り組んでいきたいなと思っております。先人の皆さんに対する感謝の思いを持って、次の世代にもやはりバトンタッチしていけるように、つないでいけるようにしたいなというふうに思っているところです。

具体的なイベント、そうですね、6月6日がさくらんぼの日なんですね。その日に何かイベントがあったと思いますし、あと、6月というとさくらんぼのシーズンなので、毎週のように何かがあったなという、農林部からちょっと聞いたことがあるのですがけれども、あとは、観光文化スポーツ部とも連携してですね、8月に花笠祭りがあるんですけども、その後にもちょっとイベントがあったと思います。その頃、さくらんぼはないけれども、でも、スイカやメロンとか、いろんなフルーツがまた市場に出回りますので、そのフルーツを使っ

ての企画だと思っております。

そうですね、あと秋もやはり、ずっと果物がそれぞれの季節に市場に出ますので、ずっと何か月にも渡ってイベントが企画されているのだと思います。

昨年も、プレ150周年というようなことで、(山形) 駅西で行いましたけれども、今年もやはり、多くの人に楽しんでもらえるようなイベントを、今年市町村と連携して行うようなこともあったかと思えます。具体的なことはやはり、担当部に聞いてもらいたいと思えますけれども、盛り上げようとみんな、部局横断で一生懸命取り組むということであり